



UTMに無線LANコントローラを統合したFortiGateを導入しセキュリティとWi-Fiを一元管理

フェニックス・シーガイア・リゾートはホテルやコンベンションセンターなどを擁し、宮崎を代表するリゾート施設として知られる。国内・海外からの観光客に加え、国際会議やインセンティブ旅行などの誘致にも力を入れる。そのゲスト用ネットワークとして、館内の無線LAN (Wi-Fi) 環境を増強するため、ファイアウォールなどのセキュリティ機能や無線LANコントローラ機能を搭載したフォーティネットのUTM「FortiGate」及び無線LANアクセスポイント「FortiAP」を導入。単一のUTMアプライアンスでセキュリティと無線APの運用管理が行え、情報システム部門の負荷軽減やネットワークのTCO削減を可能にしている。

導入・構築のポイント

- (1) 無線LANコントローラ内蔵のFortiGateでTCOを削減
- (2) FortiGateの管理画面で無線APを一元的に運用管理
- (3) 有線と無線を意識せずにセキュアなネットワークを利用

フェニックスリゾート株式会社

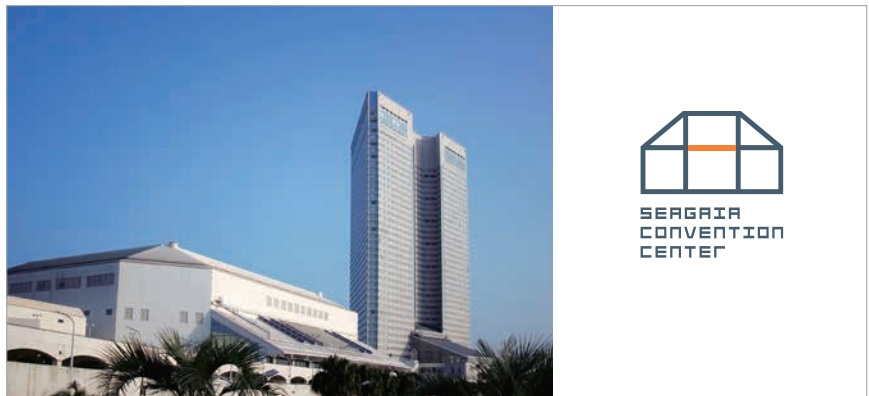
所在地 宮崎県宮崎市山崎町浜山
設立 1988年12月

フェニックス・シーガイア・リゾートは、宮崎市の東岸に位置する太平洋に面した南北約11キロ、約700ヘクタールの黒松林に囲まれた自然の中に広がるリゾートの総称。シェラトン・グランデ・オーシャンリゾートをはじめ、3つの宿泊施設や温泉施設、コンベンションセンター、ゴルフコースなど、恵まれた自然環境を生かしたアクティビティがそろう、快適なリゾートライフを提供している。

www.seagaia.co.jp



フェニックスリゾート株式会社
情報システム部
大島 郁弥氏



2000年の九州・沖縄サミット外相会合の開催会場にもなったシーガイアコンベンションセンター

国際会議などの誘致に欠かせない無線ネットワークの強化

フェニックス・シーガイア・リゾート（以下、シーガイア）は「大人を休む日。大人が遊ぶ日。」をキャッチフレーズに、国際色豊かなレストランやスパ、温泉などが楽しめるシェラトン・グランデ・オーシャンリゾートを中心に上質なリゾートライフを提案する。ホテルに隣接するシーガイアコンベンションセンターは、2000年の九州・沖縄サミット外相会合の会場として利用された歴史がある。国際レベルの会議に対応する5000名収容可能なサミットホールや特別会議室のほか、中・小8つの会議室を備える。

コンベンションセンターはウェディングやパーティで利用されるほか、近年は国際会議や報奨・研修旅行、展示会、イベントなどの誘致に力を入れる。「多くの参加者が集る全体会議をセンター最上階のサミットホールで開催し、分科会は中小規模の会議室、展示ブースはロビーフロアを利用するというように、目的に合わせて会場を設営できることが強みです。お客様が快適に利用できるよう、施設の改装

や設備の拡充を進めているところです」とフェニックスリゾート 情報システム部の大島郁弥氏は説明する。

コンベンションセンターは、大型ハイビジョン画面などの最新設備を導入するほか、「ゲスト用の無線LAN環境を強化し、これまでの懸案事項を解消しています」（大島氏）。以前はコンベンションセンターやホテルの施設ごとにLANを敷設し、会議や展示会などを開催するお客様の要望に応じて情報システム部のスタッフがその都度、無線APを設定・設置していたという。

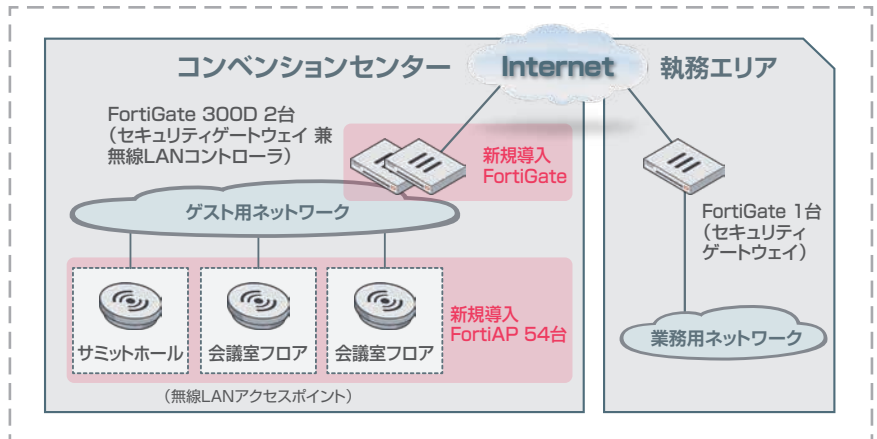
ウェディングやパーティが主体の時には無線LANのニーズはそれほど多くはなく手作業でも対応できたが、大規模な会議や研修では事情が異なる。多数の参加者が持参するノートPCやタブレット端末を無線LANに接続し、プレゼン資料やインターネットを参照しながら会議が行えるネットワーク環境が必須となる。「国際会議などを積極的に誘致するためには、まず無線APを常設し、セキュアで快適にアクセスできるネットワーク環境を整備する必要があります」と大島氏は述べる。

無線コントローラ内蔵の FortiGate でコスト削減

情報システム部ではコンベンションセンターの無線ネットワーク増強にあたり、いくつかの要件をインテグレータに提示した。その要件は、大規模な会議や研修において多数の同時アクセスに対応できる無線APの整備をはじめ、セキュリティ機能やルーター、ロードバランサなどネットワーク機能の強化、高速インターネット回線の導入などだ。

そして、複数社の提案の中から採用したのは、フォーティネットのUTM「FortiGate-300D」と高性能の無線AP「FortiAP-321C」を中心にゲスト用ネットワークを強化するというもの。FortiGateはファイアウォールなどのセキュリティ機能に加え、無線LANコントローラ機能を搭載。コントローラから無線APに対して基本設定やチャンネル割り当て、伝送出力の調整、認証設定などが行える。また、セキュリティポリシーを有線と同様に無線に適用できるという特長がある。FortiGateを採用した理由について、大島氏は「セキュリティ機能と無線LANコントローラ機能が1つのUTMアプライアンスに統合されており、導入コストはもちろん、運用コストを含めたTCOを削減できると判断しました」と話す。

ゲスト用ネットワークでは、FortiGateのセキュリティ機能としてファイアウォールを利用するほか、無線コントローラ、ルーター、ロードバランサなどのネットワーク機能を活用。「これらの機能を個別に導入する他社の提案に比べ、コストは約2/3程度に抑えられます」と大島氏はFortiGateのコストパフォーマンスを評価する。また、他社は無線コントローラに無線AP台数分のライセンスを登録する必要があるが、FortiGateはライセンスが不要だ。そのため「無線APを増設する場合にも、余分なコストをかけずに済みます」と付言する。



セキュリティと無線環境を 同じUIで一元的に管理

シーガイアではゲスト用無線ネットワークとして約60台のFortiAPをコンベンションセンターの各所に設置し、2016年1月から本格稼働を開始した。「大規模な会議やイベントでの利用はこれからですが、快適に無線アクセスできるようになったとの声が届いています」（大島氏）。FortiAP-321Cは2.4GHzと5GHzの周波数帯に対応。5GHzを利用できる無線端末は5GHzへ移動を勧める周波数ハンドオーバー機能や、負荷の少ないAPへ移動するAPハンドオーバー機能を使ってゲストに快適な無線環境を提供できる。そして、FortiGateの無線コントローラと無線APの導入効果について、大島氏は「無線APのコンフィグを設定し、電波状況を確認しながら設置していた現場作業が不要になり、他の業務に専念できます。また、FortiGateの管理画面は日本語化されており、スタッフに説明しやすい上、セキュリティも無線コントローラも同じユーザーインターフェース (UI) で一元的に管理できるため非常に便利です。従来からFortiGateを運用していたため、新たに操作方法を覚える必要がないのは助かりました」と運用管理のしやすさを挙げる。コンベンションセンターのほか、ホテルのロビーなどパブリックスペースは既存

の無線APを設置し、FortiGateでトラフィックを管理している。「これまで分らなかった無線トラフィックの状況を可視化できるようになったことも、大きな効果です」と大島氏は話す。例えば、海外からのゲストがホテルのWi-Fiを介してスマートフォンやタブレットのテレビ電話アプリを使い、夜間にインターネット回線が輻輳するといった通信傾向が判明したという。「今後、Wi-Fi環境に対する海外ゲストの利用動向を調べ、無線トラフィックの多い場所にAPを増設するなど柔軟な対応が可能です。これまでの経験値に加え、通信量など具体的な統計データに基づき、投資の最適化が行えます」。シーガイアでは今後、業務用無線ネットワークを整備する計画もある。ホテルのロビーでスタッフがゲストの要望を聞きながら、タブレット端末でレストランやアクティビティなどの予約状況を確認し、その場で予約を取るといった対応が可能になる。「業務用ネットワークはより高いセキュリティが求められます。FortiGateを活用することで、ホテルスタッフは有線と無線を意識することなくセキュアなネットワークを利用できます」と大島氏。今後、大規模な国際会議やコンベンションの開催時はもちろん、ホテル業務でもフォーティネットのソリューションが真価を発揮するはずだ。

FORTINET
フォーティネットジャパン株式会社

www.fortinet.co.jp/contact

お問い合わせ